

おはなし 散歩道

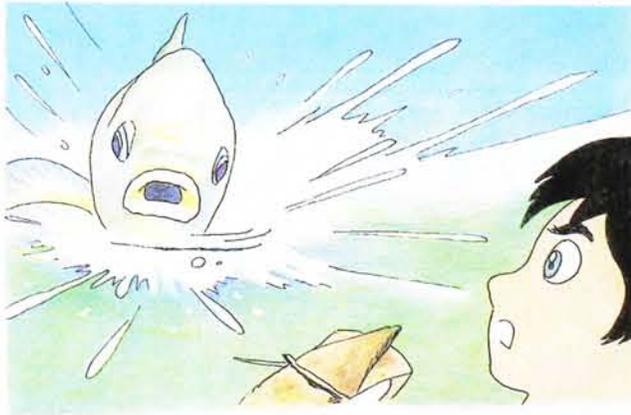
貫太と握り飯

町田市 大澤桃代

「貫太、どこだあ！」 おっかあが、叫んでい... 貫太は庭木の陰で縮こまる。握り飯の一つは口の中、もう一つは竹の皮にくるんで手の中にある。田んぼに持って行くはずの握り飯だ。あんまり遅いんでおっかあが見に来たんだらう。

貫太は縮こまったまま家を出る。「どこだあ」 おっかあの声が遠くなる。三つの握り飯は貫太とおっかあ、ばあさのだ。だから盆に一つ残しといた。家にはおとうがいねえ、わかってる、男手は貫太一人だ。貫太は野良で働く。数えで十二、やけに腹が減る。今日は朝早くから畔の普請をした。村の男衆総出の力仕事だ。家じや貫太が出るしかねえ。それから田の草取りして、ばあさの倍取った。

芋でも食ったならええが、物置には種芋しか残ってねえはずだ。いつもの我慢が、今日あはできなかった。おっかあ腹が減ってるのはみな同じだろう。何だか、食う気になれなくて握り飯を包み直した。貫太は大石に寝転がる。そのまんま、いつしか眠ってしまった。バシヤバシヤという水音がして、貫太は、はっと起き上がった。石の周りに、魚がきているらしい。バシヤバシヤン！ 魚がはねる音がする。フナのようなだ。パクパクと口を動かしている。フナは次々と集まってくる。握り飯が目当てだ。貫太は竹の包みを胸に抱く。その時



大魚が近づいている。この大石ほどもある魚だ。フナの親玉だろうか。フナたちは、大魚に道をあけるように散って行く。大魚が大石に迫ってくる。うるこの一つ一つが陽に光る。大魚は、握り飯を

あとばあさの握り飯だ」貫太は叫ぶ。それからまた気が遠くなった。「ここにいただか」はっと、気がつくとおっかあが、大石にいて貫太の顔を覗いていた。「貫太は川が好きだな」貫太はあたりを見回した。すっかり寝こんでいたのだ。包みはちゃんと胸に抱いていた。「おっかあ、これ...ちつと、潰れちまったけど」貫太はおずおずと、握り飯を差し出した。「いいよお食え。朝早くから働いたで腹減っただな。貫太、いっぺえ食ってうんと大きくなれな」うん、貫太は言って、握り飯を半分にした。おっかあのことだ、握り飯は丸ごとばあさにやっさに違いねえ。ありがとな、そう言っておっかあは、半分の握り飯をほおぼった。貫太はようやく安心して、半分の握り飯を口に入れた。(完) (さし絵・小出 茂)

Table with 4 columns listing names and locations. Column 1: 高尾山報助成金志納者御芳名(順不同・敬称略). Column 2: 所沢市 富永 信雄. Column 3: 足立区 多賀 研一. Column 4: 杉並区 齊藤 一誠.

高尾山の昆虫

オオクワガタ

高尾山に生息するクワガタは、八種とも十種とも言われています。日本を代表する大型種のオオクワガタは極めて稀で、高尾での記録も点在している状況です。希少種ながら、かつては武蔵野の雑木林にもいた幻のクワガタですが、環境の悪化で近年は見られなくなりました。高尾山では台風一過のケープル近くの灯火で、一度だけ見かけています。昨今は養殖されたオオクワガタが出回り、野山に安易に放つ放虫と呼ばれる行為が各地でなされ、生態系を乱す悪しき風潮と言わざるを得ません。利便な地、高尾でするので、そのような行為がなされないことを祈りたい気持ちです。山頂には樹液を出すご神木があり、オオムラサキが集まりオオクワガタもいたという話を何度も聞いていますが、何年前の台風で倒れてしまったのが残念です。画像は、お隣の奥多摩で得られた個体です。山梨県産に似た美型で、高尾山のオオクワガタもおそらく同型と思われ、健在ぶりを見せて欲しいと願っています。

